

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
1	二硫化炭素	難分解性	2	3	2	2		0.012	0.0025	化管法変異原性 クラス1		
3	n-ヘキサン	良分解性	4		4				0.26		EPA:I(2005)	
5	イソプレン	難分解性	2				2				産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R	
6	クロロメタン (別名塩化メチル)	難分解性	2	4		2	2	0.4		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3	
9	ブロモメタン (別名臭化メチル)	難分解性	2	2		2		0.0019		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)	
10	クロロエタン	難分解性	2	クラス外		2	2	2.7		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3	
14	1,3-ジクロロプロペン (別名D-D)	難分解性	2	2		2	2	0.0008		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986)・ K/L(1996) NTP:R	
15	メチルアミン	難分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
16	ジメチルアミン	良分解性	2	2				0.0024				
18	ニトロメタン	難分解性	2				2				産衛学会:2B IARC:2B NTP:R	
21	1,2-エポキシブタン	良分解性	2	3			2	0.019			産衛学会:2B IARC:2B EU:3	
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2	0.0076		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2			0.031	化管法変異原性 クラス1		

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
26	アセトアルデヒド	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R	
28	酢酸ビニル	良分解性	2	4		2	2	0.2		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
31	アクリル酸メチル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)	
32	アクリル酸エチル	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
34	アクリルアミド	良分解性	2	2	3	2	2	0.005	0.015	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R	
35	メタクリル酸	良分解性	2	2				0.00025				
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4		2		0.08		化管法変異原性 クラス1		
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2	0.08			IARC:2B NTP:R	
38	アセトニトリル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	EPA:D(1986)・ CBD(1996)	
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2		0.035	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3 EU:3 NTP:R	
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	良分解性	2	2				0.00004			IARC:3	
46	トルエン	良分解性	2		外	2			1.4	化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:I(2005)	
47	スチレン	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B NTP:R	
48	イソプロペニルベンゼン (別名 α -メチルスチレン)	難分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	IARC:2B	

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2				産衛学会:2B IARC:2B EPA:D(1986)	
51	ベンジル＝クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2	
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2		0.24		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)	
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3			2	0.03			産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R	
54	アニリン	良分解性	2	3		2	2	0.007		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:B2(1986) EU:3	
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2				0.0004			IARC:3	
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2	0.0004		化管法変異原性 クラス1	EU:3	
58	o-クロロアニリン	難分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
59	ニトロベンゼン	難分解性	2	3	3		2	0.02	0.0075		産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R	
60	p-クロロニトロベンゼン	難分解性	2	2		2	2	0.0026		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3	
61	ジニトロトルエン	難分解性	2	2	3	2	2	0.0008	0.01	化管法変異原性 クラス1	IARC:2B EU:2	
62	フェノール	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ I(1999)	

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3		2	0.0024	0.014		産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) NTP:R	
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
68	テレフタル酸	良分解性	2	2				0.000073				
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸 1, 2-無水物	良分解性	2	2				0.00016				
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	難分解性	2	2			2	0.000031			IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3	
76	ナフタレン	難分解性	2	3			2	0.037			IARC:2B EPA:C(1986)・ CBD(1996) EU:3 NTP:R	
81	モルホリン	難分解性	2	3		2		0.0085		化管法変異原性 クラス1	IARC:3	
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2			2	外			化管法変異原性 クラス1	IARC:4	
87	4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂) (液状のものに限る。)	難分解性	2			2 ^{*1}				化管法変異原性 クラス1	IARC:3	
103	1-オクタノール	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
111	イソブチルアルデヒド		2			2				化管法変異原性 クラス1		

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
112	グリオキサール	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
113	アクロレイン	難分解性	2	2		2		<u>0.00092</u>		化管法変異原性 クラス1		
119	クロロ酢酸	良分解性	2	3		2		0.008		化管法変異原性 クラス1		

※1 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。

※2 下線部については、D値を計算する過程で誤りがあったことから、昨年度の値を修正するとともに有害性クラスも修正を行った。なお、リスク評価(一次)評価Ⅰの結果に影響はない。